

# さんむのふるさと散歩

No.11

今回は、上総道学について紹介します。



上総道学の始まりは、享保12年（一七二七）7月に完工した、作田川にかかる大橋の掛け替え工事の監督として、幕府から派遣された佐藤直方の門弟・代官酒井脩敬が、道学の普及を念願して、成東下町在住の和田儀丹と姫島在住の鈴木養察の2名を稲葉迂斎の門弟に推挙したことから始まります。

就学を終えた2名は私塾



「上総道学発祥の地」碑



稲葉黙齋の墓碑

を開き、上総道学の創始者となりました。他に、早船の平山安左衛門・成東下町の安井武兵衛・小松の安井半十郎らが相継いで迂斎に入門し、道学の普及に努めました。

稲葉迂斎の子黙齋は、「姫島講義」と墨跡八道（孔子・曾子・子思子・孟子・周子・程子・張子・朱子ら8人の中国の儒学者の言葉を書いた書）を上総八子（鈴木養察・鈴木兵右衛門・布留川弥右衛門・平山安左衛門・安井武兵衛・安井記齋・鶴澤近儀・櫻木間齋）に伝えます。黙齋は、晩年清名幸谷村（現大網白里町）に隠居し、上総道学の普及に貢献しました。作田川の大橋には、

「上総道学発祥の地」記念碑が平成12年11月に建立されました。

元倡寺に埋葬された稲葉黙齋の墓碑は、昭和27年11月に県指定文化財となり、「姫島講義真蹟書」と鈴木養察・和田儀丹の墓碑は市指定文化財になっています。

上総道学の中心地であった山武市には、道学関係の資料がたくさん残っています。この機会に、足跡を尋ねてはいかがでしょうか。

## 参考文献

- 「要説上総道学の研究」  
平成14年 著作 塚本 庸
- 「図説 成東町のあゆみ」



「姫島講義真蹟書」